



吉田一さん

(滋賀県立愛知高等養護学校 教諭)

千葉県生まれ。関西学院大学在学中に、障害者スポーツ指導員と社会福祉士の資格を取得され、卒業後に京都大学に編入し、中学、高校の保健体育、養護教諭の免許を取得し、滋賀県の教員として採用され、当時高島郡の新旭養護学校に着任されました。県内の新設養護学校を数校ご経験され、現在は愛知高等養護学校の教員をされています。教員になった当初から、普通の学校には部活があるのに何故養護学校にはないのかという違和感を持ち続け、その実現に向けて、実践されてきました。

障害者スポーツの世界に携わるきっかけ

吉田 私、関西学院大学に通ってたんですけど、その時に障害者スポーツ指導員という資格をとったんですね。でも、大学卒業するまでは、特にボランティア活動とかやったことなかったんです。ほんで、教員として滋賀県で採用されました、振り出しは新旭養護やったんです。その時は、三時になったら全生徒が帰ってたんです。今でこそ色んな学校でクラブとか部活と銘打ってやってますけども、ゆくゆくはクラブとか作ってやっていきたいなって思いは、教員になってからずっと思ってたんです。それで、三、四年目ぐらいの時に、滋賀県障害者スポーツ協会が、皇子山の県立スポーツ会館にあるんですけど、そこに「何か協力できること、障害者スポーツ指導員って資格で、協力できるところとありませんか？」って電話したのがきっかけみたいな感じですね。

齋藤 先生から電話をされたんですか？

吉田 はい。障害者国体をやっているということを知りましたね。よかったら関わらせてもらえんかとか、そんな感じでしたわ。元々パラリンピックの選手を育ててみたいという思いもちょっとあったんです。で、当時は教員しててもクラブもないし、この子ら、帰ってもトラブルに巻き込ま

れたりとか、悪さする子もいるんです、初発型非行(①)ってやつですね。何か打ち込むもん作ったら変わるん違うか思ってたね。そういう思いを持ったのと同時に、滋賀県でも障害者スポーツ指導員の活躍できる場があるということで、最初は県内障害者スポーツ大会の役員、補助から入って、先ほど言った全国障害者スポーツ大会も同じように。当時は、身体障害者スポーツ大会と知的障害者スポーツ大会と分かれてたんですよ。で、知的障害のほうに関わってもらえないかということ。練習会も年に何回かやって、それに顔を出したりとかして。教員になって四、五年目の時に、長距離走が速い女の子がいましたね、「おまえ、大会出てみるや」言うて、出てみたら案外いい成績でした。それ以来、全国大会に行つて、県の障害者スポーツの陸上で、最初はコーチで入ってましたけど、三年目ぐらいからずっと監督やって、今に至るって感じですかね。

養護学校で初のクラブ作り

齋藤 なるほど。その時くらいに新旭養護でのクラブ活動みたいなものも作られていた？

吉田 そうですね。放課後帰らすのもどうかと思ってたんで、週二回ほど、体育館で運動してました。そして、さつ

きの県の代表に選ばれた子がいるから、その子だけちよつと残して個別に練習してました。あと、朝練習を始めたかな。そんな取り組みをしましたね。でも当時、みんな三時下校でしたし、教員の間でも反対がありましたわ。

齋藤 そうでしょうね。

吉田 「余計なことしよって」というのが本音やと思うし、安全面は大丈夫なんかとか、そういう反対勢力とも戦いながら。要は「その女の子だけやっていいなと、うちも残してやってくれとか出てきたらどう対応すんねん」、それが本音ですわ。そんなん気にせずに、いや、この子全国行くんやから、勝たしてやらなって。その子も非行の気があつた子なんです。でも、打ち込むもんつくつたつたら、そんな悪友ともつき合わへんやろうと。最初は来たり来なかつたりとかしてね。応援してくれる先生もいてくれて、よう励まされたのは、「裏切られて何ぼやで」って。「二回裏切られても、三回目来てくれたらそれは本物や」とかね。そんなんも聞きながら、その子、いい成績おさめたんですわ。滋賀県選抜のリレーのメンバーに選ばれたんですけど、そのリレーが一位で、メダルをもらえたんですわ。

齋藤 その時、滋賀県がリレーで優勝したんですか？

吉田 優勝というか、実は組別表彰なんですよ。でも、たしか全国でも、ランキング二、三番くらいでしたね。学校に帰って報告したら、「おめでとう」やし、「何やねん、この手の裏返しよ」言うて（笑）。まあでも、「今度は追い風吹いてきたわ」と思うようにしてましたね。それで、そんな勝つた子を見たら、「次は私も」という生徒が出てくるんですわ。

齋藤 なるほど。その時に、次から次へとやりたい子が出てきたと？

吉田 はい。それとね、その県の選抜チームというか、選ばれた子らなので、ほかの学校の子もいるんです。ほかの学校の子らでも、こういうふうに出てきている子がいて、新旭養護の僕が見てた生徒と一緒にですわ。学校では、俗に言う手のかかる子。余計なことしよって、少々手焼かせてつて子らも、変わってきたとかね。回り回って、新旭の吉田が実は教えてたらしいとか広まったみたいで。僕は結構、生活指導もうるさいこと言うんです。競技以前に、髪の毛染めてたら、染め直すか、丸坊主にでもしてこいとかね。取り組む、本気でやるんやつたら、とことん本気でやってみる言いますし、練習でも、月に一、二回ぐらいの練習会

①初発型非行……動機が比較的単純で、犯行が容易な犯罪を指します。「遊び型非行」とも呼ばれ、繰り返すうちに犯罪意識が薄れていくこともあるそうです。

しか陸上競技場を借り切ってなかったんで、それまでしっかり練習してないとか、そういう部分を口酸っぱく言ってたんですわ。ほんで、そこまで見てくれてありがとうっていうのが、ほかの学校の先生、学生と通じてですけど上がってきて。逆に言うと、この子らの自立どう考えとんねんっていうかね。ちょっと腹立たしさも覚えて、でもその子が変わってくれたらその学校も変わっていくやろと思ってるね。

齋藤 それは、先生が県の監督をされてからですか？

吉田 うん、やり始めてからですね。まあ、その前もありましたし。

齋藤 何人くらい教えてはったんですか？

吉田 派遣人数が、近いところやと多めやし、陸上だけやとね、大体一〇人ぐらいですね。それを月二回くらいやってまして、そういうのを聞いて「実は関わってみたい」という教員も増えてきて、宝の持ち腐れというか。でも、これ福祉行政なんですよ。

齋藤 ああ、そうなんですな。

吉田 我々教員やから教育行政、「余計なことしよって」とか、「先生、どういふふうにしたら出られるんですか」とか言うから、俺、休みやでとか（笑）。年休で行ってるわとか。今でこそ、全国大会の結団式に教育長が来てくれ

て激励してくれたりしています。学校支援課の特別支援教育室長も一緒に来てくれたりとかもしています。そういうふうになつてきましたけど、全国大会に関わり始めた当時は、正直言つて「余計なことしよって」「学校と関係ないやん」、そういうのはありましたわ。

齋藤 今も福祉行政ですよ？障害福祉の社会参加の部門で行われてる。

吉田 はい。障害者の国体、九年後には滋賀にも来ます。国体と全国障害者スポーツ大会が、別々というわけにもいかんやろうと思う。私が新旭養護に勤めて、五、六年後に採用されてきた岡田②という女性教員がいるんです。彼女は、教員を数年してから、県教委の中のスポーツ健康課に三年程いてたんですわ。そんな時に色々頑張ってくれて、それまでも一緒に役員行ったりしました。彼女は元々バスケットボールなんやけど、「吉田に捕まった」てよくにこにこしながら言ってます（笑）。大会とかでも五泊六日とか連れていかれて。今では色々言いながらも熱心にやってくれてね。そんな経緯もあつて、スポーツ健康課にいた三年間に戦ってくれるというか、「それ障害者でもありますやん」とか言ってくれて、全国大会の結団式に教育長が来てくれたりとかしました。僕だけ取り上げられていいのかな、僕だけじゃなくて、今話した岡田とか、それ以外も色々

支えてくれる教員とか、関わってくれてた人達を取り上げてほしいですね。今でも全国大会とか行ったら、年休で五泊六日やし。

齋藤 今も年休なんですか？

吉田 コーチはそうですね。私は監督なんで、職務専念義務免除で行かしてもらってます。「後進のために、道を開くのも大事やろう」と、ここの管理職も「一回、県の教育委員会、教職員課にかけ合ったらろう」と言うてくれて、そういうふうにできるようになったんですわ。

選手との思い出とハマるきっかけ

齋藤 これまで多くの選手を教えて来られたかと思いきすけど、その中でも、この生徒との思い出が印象に残っているとかはありますか？

吉田 どの子も思い出深いんでね。一番思い出深いとなると……。第一回の全国障害者スポーツ大会ですわ。みんな、メダル取れてたんですよ。その中で、一人だけ取れない子がいたんですわ。「最後、リレーは誰使おうかな」って悩んだんですわ。その時に、一緒に帯同してく

れた看護師さんが「その子、ほんまは、リレーに出てメダル取りたいんだと思います」と言ってくれたんです。ほんで、もう一か八かでその子をアンカーにしたんですわ。ほんで、スタートしてそのアンカーにした子まで、一番で周ってきたんですけど、その子、下ばかり見て走る子やっただけ見て走りや。ゴールにわしがおるから、ずっと手上げとくわ」って。で、ずっと手を上げてたんですわ。そして、最後ちょっと追い上げられましたけど、一位でゴールしたんです。その時、全国ランキング一番でしたわ。走り終わって、抱きついてきてくれてね。その時に、周りで見たと看護師さんとかコーチが、涙流して喜んでくれてね。僕も、後からそういう話を聞いてて、ジーンってきたっていうのがありました。印象に残っているっていったらその子かな。あえて一番と言ったらその子やけど、どの選手も印象に残ってますわ。辛い夏場の練習とか、遊びに行きたいのを乗り越えてやってきて、頑張ってるって今言ったエピソードみたいなの、いっぱいありますわ。それがあるからこそ（笑）。

齋藤 やめられないと……。 （笑）。

②岡田さん……滋賀県内の特別支援学校の教員。

吉田 やめられないっちゅうのは（笑）。また、そういうのにハマってくる教員も大分増えてきました。

齋藤 今、指導されている先生方は何人ぐらいですか？

吉田 一〇数名かはいますかね。全部の競技だと二、三〇名くらいいますね。

齋藤 陸上競技だけで一〇数名いるんですね。

吉田 はい。当然役員として行けるのは、六、七名ぐらいだけですけども、ありがたいことに交代交代しながら行けるようになってきましたね。正直、僕が関わり始めたころは、僕が全部やってきましたね。気持ちのある先生に「土日潰れるけど、県費で大会ついていけるで」「その代わり年休やけど」とって言うて（笑）。もちろん「そんなん関係ないわ」という教員はその倍いますけどね。でも、行けなくても応援したろっていう人らが「交流、大事や」と言うて広めてくれて、福祉とか管轄する行政とか、そんなん言うてなくて。年配の人が何か言ってきたら「先輩ら、そんなん言ったら、この子らの大会をつくってきたんですか」とって言うて、しーんってしますわ。そこが、敵作ってるところでもあるんです（笑）。まあ敵作ってでも、この子らが注目されて、活躍して、しょうもないこととしてた生徒が陸上に打ち込むようになって「あいつみたいになりたい」とか、他校の先生からも「行かしてもいいです

か」とって言うて。おお、いいけど、そのかわりあれや、けがしてもしらんでって（笑）。初めて来る人でも、岡田が吉田が言っていることを「これが大事なんちゃうか」とって言うて、繋いでやってくれたり、ほんまありがたい人ですわ。それ以外にも、若手の教員が吉田みたいになっていきたい、っていう教員もだいぶ増えてきました。でも、「覚悟しいや、イバラの道やで」とって（笑）。最初はでこぼこ道やったけど、今はだいぶ舗装されてきました（笑）。

好きやからやってるだけ……

齋藤 反対勢力を乗り切ってこられた先生のパーソナリティーは、どういうところで育まれたんでしょうか？

吉田 昔からやんちゃ坊主でしたね（笑）。

齋藤 やっぱりそうですか（笑）。

吉田 いたずらばかりしてました。勉強はしませんでしたね。中学校入ってからはしましたけど、小学校の時は、暗くなるまで崖とか山の中とか、田んぼとか川とか、そんなところではっかかり遊んでましたね。いつもどろどろになって帰って親を怒らせてましたね。反対勢力と戦うとか経験してて、世の中斜めから見えましたね。あと、人と違うことしたいというの。他の人がするんやったら、俺は

別のことしたろうとかね。

齋藤 やっぱり、初めての取り組みみたいなことに魅力を強く感じられる？

吉田 大好きですね(笑)。僕、教員してここで四校目で、その内三校が新しい学校なんですわ。その中でも、長浜高等養護学校(③)って、県でも全国でも高校に併設されているのは初めてで、その立ち上げに五年間いて、ずっと生徒指導ばかりしてましたわ。やんちゃ坊主とつき合うのも好きやし。親御さん呼んで、親御さん泣かせながら、こっち振り向かせると、子どもも変わってくるんですわ。それを見て、その子どももその時はっとするんですわ。俺、こんなことしてもうたんやって。親の涙は、子どもを動かしますね。これは、陸上を見て、やんちゃ坊主がはっと変わる瞬間と一緒です。場面が違うけど、その変わっていき姿っていろいろのを見るのが大好きで。

齋藤 陸上競技でやんちゃ坊主がはっと変わる瞬間っていうのは、何か目標ができるとか？

吉田 はい。打ち込むもんとか。絶対メダル欲しい、入賞したい、練習で勝ってた子に負けたとか、追い抜かれたとかの悔しい気持ち。そういう一瞬変わっていく姿とか、そ

れを見届ける人がやっぱりいるっていうか、変わる瞬間っていうのは色々ですね。でも、その子らの自信になるとそれが続くんですわ。必ず良くなったから見届けてやるんですわ。こんだけ良くなったんやって、具体的に言うてあげるんですわ。ほな絶対、その子らもついていこうと思ってくれるんでね。

仲間が増えること、今後への期待

齋藤 お話を伺っていると、新旭養護学校で、部活動のアイオニアみたいな感じだと思っんですけど、それにつきものの困難さは？

吉田 好き勝手やってるだけやけど(笑)。教職員の目ですかね、当時若かったなので。でも、乗り越えてきてる人って僕だけじゃないですからね。そんな中で、自分が乗り越えてきたやり方とか、学校によって事情が違いますけど、自分と同じような教員がいてくれるというのは、やっぱ嬉しい。一足先に苦労した自分としては、こうするともっと伸びるよとか伝えたい。だから、苦しみっていうよりは、今となっては、やっぱしやってきてよかったかな(笑)。

③長浜高等養護学校……平成十八年四月に、比較的軽度の知的障害のある生徒を対象とした県下で最初の高等養護学校として滋賀県立長浜高等学校と同じ敷地内に併設して開校。

かえってそれもよかつたんちゃうかなとかね。それがあ
から、今みんな、スムーズにできてる状態もあると思っ
てますね。

齋藤 今後は、滋賀の、あるいは全国の障害者スポー
ツとか養護学校の部活動などのあるべき姿みたいなのは、ど
ようにお考えですか？

吉田 やっぱ僕が乗り越えてきたっていうか、やってき
た道っていうのは、他府県の先生も同じ思いでいるんです。
教育と福祉で。監督会議とか行ったりしていると、毎年、顔
見知りになっていくんですわ。待ち時間に話したりして、
宿とか一緒の時に、最終日の晩は、ちょっとロビーで一緒
にやりましょうか言うてね(笑)。

齋藤 ロビーですか？(笑)

吉田 はい(笑)。年によって一緒に泊まる県とか違いま
すけど、話してるとどこも一緒やなって。だから、全国大
会行って同じ仲間と顔を合わせられる、それも一つモチ
ベーションになってます。その人らと一緒に話しながら、
東京パラリンピックに滋賀県から何人か送りたい、ただ送
るだけじゃなくて、全国の仲間と世界で一緒に戦ってほし
い。世界で戦うと言うたけども、世界のコーチとか世界の
監督とかも一緒やと思うんです。もう一つは、この障害者
の県大会、障害者の国体というのは一三歳から出られるん

ですよ。僕は、特別支援学校に勤めてるんで、養護学校や
と、県から案内が来ても周知しやすいんやけど、特別支援
学級の子とか大会があることすら知らない。ましてや土日
なので、担任の先生にしたら「そこまでして」ってあると
思うんです。九年後には滋賀で国体が行われるんですけど、
全国障害者スポーツ大会も一緒に来るんですよ。盛り上げ
ていきたいし、今一五、一六歳からの参加が多いけど、中
学生年代にも来てほしい。国体でも小五プロジェクトとい
うて、小五から色々強化とかやっています。あれの障害児版と
かできないかなと思います。私らもさっき言った月一、二
回の練習会いうても、陸上競技場を借り切ってるんですわ。
さっき言った人数でやっても勿体無いでしょ？どんどん中
学生、小学生、親御さん、あるいは先生も、気持ちある人、
来てもらいたいです。選手らも、昔は多動の子も多かった
ですよ。「俺も私も、あんなころあったわ」言うてね。遊
びの場でもいいし、来てくれて。そこで「ああいうお兄ちゃ
ん、お姉ちゃん見てて、僕も私もあんなになりたい」って
思ってもらえたらええし、あと僕が一番の気持ちとして、
滋賀国体で活躍できる子。滋賀国体がせつかく来るんやか
ら、低年齢の時から出続けられる、大人になっても、高齢
者の方、ねりんピックに出られるような方々でも出続け
てますし、一生涯にわたって楽しめる「障害者の生涯スポー

ツ」(笑)。そういう子になってほしいなと思いますね。集える場とか、スポーツを通じて盛り上げられる、そういう場からね。よく国体は文化と言っているけども、文化っていうの、そういうことじゃないかなって。それがたまたま陸上であり、国体って県内の色んな会場ですますやん。僕は陸上やけども、それ以外の種目でも「ここに行ったらできる」、月に一、二回だけでもそんなんが広がってほしいなと思いますね。

繋がっていないようで、実は繋がっている

吉田 葉牡丹を育ててるんですよ。

齋藤 葉牡丹ですか？

吉田 はい。寄せ植えにして、一鉢一〇〇〇円で売ってますわ。これが飛ぶように売れるんです。農作業も好きなんですわ(笑)。教員になるまで農作業はしたことなかったけど、作業学習っていうのなんですわ。やっぱり良い作物育てようと思ったら、土がよくて、しっかりと根が張らなきゃだめなんです。見えないところでどんだけつめるか。それは練習でも一緒に、基礎基本とか、見えないとこの根っこが大事やでとかね。そういう農業に携わせてもらって、何か全部結びついてるかな。今、僕もこうやって、教務主任

やらしてもらってますけれども、言ってみたら管理職と関わる、教員をつなぐような、あと学校全体を考えていくような立場もさしてもらってます。いろんな教員がいます。それと、若い先生が生き生きしてやってないっていうかね。そういうのを見ると、何とかしたらなあかなと思うてね。自分が好き勝手やってきただけに、若い先生なんかほとんど好き勝手してほしいな。失敗を恐れず。そういうのがちよつとでもやりやすいような状況を作ってあげられないかな。今でも好き勝手やりますけど、僕は(笑)。

齋藤 今日は、本当にお忙しいところありがとうございます。ごましました。